

I. 日 時：平成28年1月19日（火）18：00～20：00

場 所：私立大学情報教育協会事務局会議室

II. 出席者：向殿担当理事、今泉委員長、木村委員、西浦委員、山本委員、田宮委員

（事務局 井端事務局長、平田職員、竹苗職員）

III. 検討内容

今回は主に機関誌 2015 年度 No.4 に掲載予定の原稿確認を行った後、機関誌 2016 年度 No.1 の企画を行った。

#### 1. No.4 の原稿確認

巻頭言、特集「教学マネジメントの試み」、「人材育成のための授業紹介／初年次教育」、「教育・学修支援の取り組み」の原稿を確認した結果、以下のとおり各原稿について追加・修正を筆者に要請することにした。さらに、特集の北九州市立大学は次号に掲載を延期したため、その分の空き4ページについて、特集の横浜国立大学と金沢大学を各1ページ、事業活動報告の教育改革 FD/ICT 理事長・学長等会議開催報告を1ページ、人材育成のための授業紹介の日本大学を1ページ増やし対応することにした。

##### (1) 巻頭言

- ・「IT」を「ICT」に統一する。

##### (2) 特集「教学マネジメントの試み」

すべての原稿は、編集の際に、文末を「です／ます」調に統一する。

###### ① 横浜国立大学

- ・「てにをは」の抜けを修正し、1ページ目の「年」と「年度」の混在を「年度」に統一する。

###### ② 福岡工業大学

- ・文頭の注記番号は文末になるよう編集する。
- ・「2. 電気工学科でのコミュニケーション教育」の「なぜなら、コミュニケーション能力とは、・・・教育を行う必要があると考えた。」は冗長なので2～3行に簡潔にまとめる。
- ・原稿は「3. キャリア教育と全学的な AL への展開」が中心となるので、「2. 電気工学科でのコミュニケーション教育」を短くまとめ、図1も必要に応じて縮小する。
- ・「3. キャリア教育と全学的な AL への展開」の前の「もらった」は「いただいた」に修正し、その他の箇所も同様に修正する。

###### ③ 北九州市立大学

- ・取り組み内容は、学修成果のアセスメントについて評価基準を作成し、地域社会からの評価と PBL を実施することであると思われるが、実践型教育プログラムの具体的内容、可視化の仕組みの試行・実施状況、取り組みの効果が原稿からは読み取れないので、それらを主体とした内容に再構成いただくよう依頼し、掲載は次号に延期する。
- ・教育内容を紹介してもらうため、AP の責任者である教員に執筆いただくよう依頼する。

###### ④ 金沢大学

- ・「3. アクティブ・ラーニングの深化・充実と学修環境の活用・展開」「4. 学修過程・成果の可視化」に主眼を置き、特に「教学マネジメント上の問い」の例や、「教学マネジメント改革を実施する上で「リサーチ・クエスチョン (RQ) を形成することが重要」とであるとわかった例をあげる。
- ・「4. 学修過程・成果の可視化 (教学 IR) 」の後半にある「教学 IR の有用性について」、具体的に論じられたこと、「FGI 調査の具体的な手法や分析結果について」、何を分析しどのような気づきがあったのかを含めて具体例を挙げる。

###### ⑤ 関西国際大学

- ・3ページ 図1の学生数nを関西国際大学の人数だけは表記する。
- ・4ページ右段で「KUIS ベンチマークとルーブリックを組み合わせた評価表を作成して」とあるので、そこからどのような結果が得られたのか、具体的に紹介する。
- ・「6. AP 事業 の展開」で「本学で実績のある [削除] KUIS 学修ベンチマークとルーブリックを組み合わせて [追加] 用いてはどうかとの提案があった」と修正する。
- ・「表3 本事業に関する参加企業の意見」のうち、「Q2. 評価で用いたベンチマーク等について」は、本文で説明を追加する。

## ⑥ 富山短期大学

- ・表2・表3と文中の「(毎回)授業アンケート」「(期末)授業アンケート」の( )括弧を削除する。
- ・表2と文中の「CP/DP」「FD/SD」の「/」を「・」に表記を統一する。
- ・ループリックの説明が複数あるため、最初だけにする。

## (3) 人材育成のための授業紹介(初年次教育)

### ① 別府大学

- ・初年次教育の取り組み全般の紹介になっているが、同大学の取り組みの特徴は、主体性を育む初年次教育での卒業生の活用なので、1年後期の基礎演習、卒業生による授業を中心に紹介する。
- ・図1のシラバスは、大学紀要に掲載されている基礎演習シラバスに変更する。

### ② 京都産業大学

- ・2012年度までの内容が中心となっているが、4ページの右段にある2013年度以降のリポート科目に変更してからの結果やそれを受けた現状を具体的に記述する。

### ③ 日本大学

- ・「図1 1年終了時平均点」の縦軸の一番下は「65」と思われるので、確認する。

## (4) 教育・学修支援への取り組み(江戸川大学)

- ・小見出しの読点を削除し、本文中の読点は多いので整理する。
- ・「図4 エドへん画面例(授業ごとの出席状況)」は本文で画面表示について説明する。
- ・「図5 エドへん画面例(学生ごとの出席状況)」、「図7 エドクラテス画面例(初期画面)」、「図8 エドクラテス画面例(ログイン後)」は削除し、4ページにまとめる。
- ・図6のアンケート結果は公開情報に留めるよう再度確認する。

## 2. 機関誌2016年度No.1の企画

### (1) 特集

特集テーマについて検討した結果、「教学マネジメントの試み」を継続して掲載することにし、以下の大学を候補として依頼することとした。

- ・東京女子大学：「リベラルアーツ教育における学修成果の可視化」
- ・東京理科大学：「学修ポートフォリオと授業収録配信連携によるPDCAサイクルの確立」  
授業収録配信システムによるアクティブ・ラーニングの促進に重点を置いていただき、その他に、学修ポートフォリオとの連携をどのようにしているのか紹介いただく。
- ・山口大学：「コンピテンシー修得と保証の具体策」  
9月の教育改革ICT戦略大会で紹介いただいた、学生目線による授業改善、統合型学修成果の可視化、シラバスへのALポイント明示などを中心としていただく。
- ・北九州市立大学：「実践型教育プログラムによる学生の成長を可視化するための試み」
- ・宮崎国際大学：「クリティカル・シンキングと英語スキルの可視化」  
クリティカル・シンキングと英語スキルの関係をループリック・ベース・シラバスで視覚化し、学修のPDCAサイクルの確立をどのように行っているのか紹介いただく。

### (2) 新たな企画「大学の組織的な取り組みの工夫」

これまで「人材育成のための授業紹介」のテーマで、教員個人による取り組みの紹介であったが、現在の大学教育では組織的な取り組みが欠かせなくなってきたため、組織的な取り組みとして考えられるテーマを検討した。その結果、「eポートフォリオの導入」、「高大接続改革」のテーマで実践大学を探し掲載していくことを確認した。また、現状で考えられる以下の各大学にも状況を確認の上、依頼することにした。

また、原稿はeポートフォリオと高大接続の2テーマ併せて、2016年度No.1とNo.2で掲載可能なものから順に掲載していくことにした。

なお、今後のテーマとして、IRの取り組みについても取り上げていくことを確認した。

#### ① eポートフォリオ

大阪府立大学、立命館大学、その他に賛助会員企業に導入大学でよい取り組みを紹介いただく。

#### ② 高大接続改革

追手門学院大学、千葉大学、愛媛大学、杏林大学、三重県立看護などAP事業採択校から主に依頼する。

## 3. 次回委員会

次回は平成28年4月7日(木)18:00から開催することにし、主に機関誌2016年度No.1(6月号)の原稿確認とNo.2以降の企画を行うことにした。